



東京の会通信

No.293

2020年11月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区
住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

東京の会事務所を移転します

東京の会の事務所は、以前曙橋にあった全国協議会の事務所に同居していましたが、全国協議会が東神田に移転したことに伴い、2012年1月に同じ曙橋にある第1菊池ビルに移転しました。しかしながら賃料が高く財政を圧迫しているため、再移転を検討してきました。この度、全国協議会およびビルのオーナーとの協議が整い、再び全国協議会の事務所の一部を借りて、同居団体として入居することとなりました。

今回の移転により、賃料負担は大幅に軽減されます。東京の会の同居についてご理解・ご協力いただいた全国協議会理事および事務局の皆様深く感謝申し上げます。

ます。今後も東京の会は加盟団体として全国協議会と連携を強化し、活動を進めていきます。

事務所の引越は2020年11月22日を予定しています。移転先の住所・電話・FAX番号は下記の通りです。代表メールアドレスは変更ありません。なお、以前は月曜日と金曜日に事務所に当番ボランティアがいましたが、今後は決まった日の当番はおりませんので、連絡やお問い合わせはメールかFAXをお願いします。また、メーリングリストに登録されている方はそちらをご活用ください。

骨髄バンクを支援する東京の会事務所 (2020年11月23日以降)

新住所 〒101-0031

東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3階

新電話番号 03-3866-8171 (FAX兼用)

代表メールアドレス marrow_tokyo@yahoo.co.jp (変更なし)

チャリティーコンサート中止

来年には開催できることをみんなで祈っています

前月の「東京の会通信No.292 (2020年9月1日号)」で報告したとおり、27年間続いていた、東京の会の秋の風物詩である「ピアノ三重奏チャリティーコンサート」は、新型コロナウイルス感染拡大のため、大変残念ながら今年は27回目を開催できず、中止といたしました。

演奏者は、三戸素子さん (ヴァイオリン)、小澤洋介さん (チェロ)、高田匡隆さん (ピアノ)。ピアニストは当初のサンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団のフィリップ・ヤングさんが、お仕事やご家庭の事情でアメリカから来日するのが難しくなり、2012年からはティム・レーベンスクロフトさん (2012年)、ラファイル・ゲーラさん (2013年)、コルネリア・ヘルマンさん (2014年) とのトリオを経て、2015年以降か

ら昨年までは高田匡隆さんとの演奏が好評で、毎年大勢のお客様にお出でいただいています。皆さんチャリティーとして演奏会に臨んで下さっています。

1992年11月から東京の会の恒例行事として続いてき



2018年 ピアニスト高田匡隆さんとのトリオ

たコンサートです。2019年まで26回ものチャリティーコンサートを毎年開催してきました（2011年は東日本大震災の影響で会場が押さえられず中止）。

しかし残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、求道会館での演奏会はすべて中止となりました。求道会館の館長さんは、「3月以降予定されていた演奏会がすべて取りやめになった。会館運営も、歴史ある建造物なので（客席等が整備されているわけではなく）多くの来場者は難しい。今後、密にならない方法で換気を取り少しずつ会場使用を検討したい」と話されていました。

今回の開催中止にあたり、三戸素子さんより、コロナ禍での自粛以降の活動について投稿いただきました。

新型コロナウイルスに負けず、活動を続けています！演奏会も開始！

ヴァイオリニスト 三戸素子

長かった梅雨が過ぎ、40度超えも珍しく感じなくなった暑い夏も過ぎ、マスクをしたままいつのまにか秋になりました。毎年「芸術の秋」の11月に行われ、今年27回目を迎える筈だった骨髄バンクチャリティー「ピアノ三重奏の夕べ」も今年はお預けです。

お預けなのはこの骨髄バンクのコンサートだけではありません。たくさんの人々と一緒に素晴らしい名曲たちを共有するコンサートは全て、まさにそのたくさんの人々と一緒ということが仇となり、3月末からふつりと途絶えました。感染者の少ない地方での公演も、「汚染地」の東京からの演奏家は行きにくくなりました。音楽仲間のいるヨーロッパも今は遠く感じます。

でも音楽活動は続けています。こんな状況にならなかつたら、演奏が忙しくて始めなかったであろう活動です。小澤は、毎週日曜日の朝11時から、YouTubeでベートーヴェンやバッハのチェロ曲についての考察をライブ配信しており、もう20回くらいになりました。「わからないと思っていたクラシック音楽が、丁寧に解説してもらって、こうやって聴けばいいんだ、とわかってきた。」というような感想を多数いただいています。

三戸も、毎週火曜日と土曜日の週二回、オンラインで「三戸素子ヴァイオリン体操」をやっています。これはヴァイオリン演奏に良いと思う身体作りのために考案した体操ですが、ヴァイオリンを持つこともないので、音楽とは関係のない一般の方も、肩凝りがとれる、集中力がついて面白い、と一緒に参加されています。東京の会のメンバーのお一人もおられ、私にとって嬉しい限りです。

この頃は規制もだいぶ緩和され、小規模のコンサート活動を気をつけながら少しずつ再開しました。席数を減らし、コロナ対策を徹底し、おっかなびっくりの開



2018年求道会館にて 目の前で演奏にお客様もうっとりですが、お客様からの「久しぶりの生の演奏に涙が出ました」との感想に勇気が出ます。演奏家の私たちにとって、演奏会が思い切りできないのは寂しいです。

私たちが骨髄バンクに関わるようになったきっかけとなった親友のピアニスト、金井いづみさんの命日も11月。彼女の闘病の時からお世話になり、一緒に闘って下さった骨髄バンクボランティアの皆様とも、また毎年コンサートに来て下さっているお客様にも、今年はお会いできませんが、来年はまた、笑顔でお目にかかれるよう願っています。そしてこの先、コロナの蔓延が最低限で回避できますように、医療現場の方々のご苦労に思いを馳せながら、心から祈っています。

「ピアノ三重奏の夕べ」の歴史

2011年8月に発行された東京の会20年史に、「秋の恒例行事」としてピアノ三重奏チャリティーコンサートの活動を記したページがあります。コンサートが中止となった今年、あらためて、小澤さんや三戸さんがこのコンサートにかける思いと、私たち東京の会が開催を続けてきた原点を、20年史からの転載という形で振り返りたいと思います。

2011年8月発行、東京の会20年史「私たちの足あと」より

サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団と東京の会との出会いは、1992年6月24日に遡ります。オーストリアのザルツブルグ・モーツァルテウム大学に留学して卒業後、ヨーロッパを舞台に活躍していた日本人女性ピアニスト金井いづみさんは28歳の時、慢性骨髄性白血病に罹りました。愛娘の救済に少しでも役立てばと骨髄バンクボランティア活動に入られていたいづみさんのお母さまが、サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団の骨髄バンクチャリティーコンサートを開催してはどうかと申し入れてこられ、打ち合わせのため、小澤さん(チェリスト)と三戸さん(ヴァイオリニスト)のお二人が東京の会事務所をはじめ訪問されたのがきっかけでした。

サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団はいづみ

さんの大学の同窓生、三戸素子さん、小澤洋介さん、アメリカ人のフィリップ・ヤングさん(ピアニスト)がトリオを組み、広くヨーロッパ・アメリカを中心に演奏活動を展開していましたが、いづみさんの発病をきっかけに演奏活動を通じて骨髄バンク普及啓発活動を行い、いづみさんの闘病を支援し励ましてられました。

わが国では骨髄バンクが立ち上げられたばかりの時期で、ドナー登録者も2万人をやっと超えた状態でした。トリオの皆さんも骨髄バンクドナー登録を済ませましたが、そう簡単にHLA(白血球の型)は合いません。そこでサントの皆さんは自分たちの音楽活動を通じて骨髄バンクの普及啓発とドナー登録を呼びかけたいと、いづみさんのお母さんと相談してチャリティーコンサートの開催を考え、ボランティア団体に連絡してられたのです。

そして、1992年11月26日東京(港区)を皮切りに、27日神奈川、28日千葉で第1回目の骨髄バンクチャリティーキャンペーン・サント・フローリアン・ピアノ三重奏団コンサートが開催されました。三戸さん達は、以降毎年「金井いづみさんを救いたい、彼女と同じ病気で苦しんでいる人たちを救いたい、もっと骨髄移植、骨髄バンクのことを知ってもらいたい」との思いで、東京の会をはじめ各地のボランティアと共にコンサートを開いてきました。3年後の1995年からは新宿モノリスで昼休みコンサートも始まり、高層ビルの一角でビジネスマンたちに憩いのひとときを提供すると共に、骨髄バンクの普及広報を行ってきました。

この年、いづみさんはオーストリア・インスブルックで自家骨髄移植を行いました。この療法は根本的な治療法ではなく、移行期に入った病状を慢性期に戻す



2012年コンサート

延命的処置です。翌1996年、発病から7年経ったいづみさんに台湾骨髄バンクでHLA適合ドナーが見つかったとの連絡が入りました。9月21日に日本で初めて台湾骨髄バンクのドナーさんから提供された骨髄が、東京でいづみさんに移植されました。しかし、激しいGVHDによる肝臓、腎臓などの臓器不全が原因で帰らぬ人となりました。

発病から7年、度重なる治療で体はすでにぼろぼろに蝕まれていたのでしょうか。いづみさんの最後の言葉は「もう終わりにしましょう」でした。残念な結果となりましたが、いづみさんが初めて骨髄提供を受けた台湾骨髄バンクとは、その後日本の骨髄バンクと相互に提供が行われ、また、その他の国の骨髄バンクとも提携が拡大して国際交流のパイプが太くなってきています。慢性骨髄性白血病にはグリベックという画期的な薬剤も開発され、今では骨髄移植をしないで薬の服用によって寛解が維持できるようになってきています。

その年のチャリティーコンサートは、いづみさんが召天されてから2週間後の1996年11月18日、大井町駅前きゅりあん小ホールで開催されました。トリオの皆さんは友を喪った悲しみの中にもかかわらず、素晴らしい演奏で聴衆を魅了してくれました。

その後も、サント・フローリアン・ピアノ三重奏団の骨髄バンクへの普及広報のための支援は続きます。春には鎌倉円覚寺で、秋には東京を軸に関東を中心に3~4ヶ所でコンサートを開き、そのたびに、ピアノのフィリップさんが休暇をとられてアメリカから飛んで来られます。短い時間での曲の解釈の打ち合わせやリハーサルを済ませて、見事な演奏を披露されるのです。ちなみにトリオの共通言語はドイツ語です。サント・フローリアン・ピアノ三重奏団の選曲はチャリティーコンサートだからといって誰でも知っている有名なピアノ三重奏曲だけを選ぶのではなく、こういう曲もありますよとピアノ三重奏曲の奥の深さを紹介して下さる選曲が行われます。今度は誰の三重奏曲かなと楽しみになります。

演奏会にはいろいろな裏方での協力者も必要です。まずピアノの調律です。ピアノ調律は小澤さんの個人的なお知り合いの大和弘一さんがボランティアで引き受けてくださっていました。2003年に急逝され、その後どうすればよいかと思索していたところ、田園調布に本社のある(株)ピアノ調律センターさんから思いが

東京の会 「11月、12月定例会」 のお知らせ

11月28日(土)、12月19日(土)午後5時30分より

会場：こくみん共済coop東京会館

(旧：全労済東京会館)3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※1月定例会予定・1月23日(土)午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。



2013年コンサート

けないご連絡をいただきました。大和さんは同社で仕事をされていたことがあり、技術を習得されて独立されたとのことで、大和さんの遺志を引き継いで調律をボランティアとして会社ぐるみでお引き受けくださるというのです。驚くと同時にまことに有難いお話なので、当時の東京の会代表新田恭平氏が、同社をお訪ねして宇都宮社長さんにお会いし、お願いすることになりました。2004年のパーシモン小ホールのコンサートから同社の調律師高田典男さんが引き受けてくださっています。

ピアノ演奏に必要な譜めくりには楽譜が読めて演奏者の邪魔にならない注意深い人が必要です。当初、会員の尊田葉さんがお引き受けくださっておりましたが、ご都合で退かれたあと、品川バプテスト教会のオルガニストの岸本敬子さんが引き受けて下さり、現在に至っています。



2014年コンサート

会場費その他コンサート運営の費用の一助にいろいろな面で支えてくださるサポーターさんなしではコンサートも長続きしません。お花の寄付をしてくださる千葉の中澤ナーセリーさん、3年前から立派なバラの花を寄贈していただくようになり、コンサート終了後に販売するとあっという間に売り切れてしまいます。毎年チケットを購入していただき、ご来場くださる常連のサント・ファンの皆さんのご支援がなければ演奏会は成り立ちません。

コンサートの開催という事業を20年も続けて来られているのも、サント・フローリアン・トリオの楽友を喪った個人的悲しみを超える血液難病の患者さん救済への熱き思いと、その思いに賛同して支えるサポーターの皆さんのご支援、そして東京の会会員一人ひとりのバイタリティー結集の結果だと実感する次第です。

東京の会よりご支援のお願い

今回、チャリティーコンサート中止の報告をしたところ、毎年このコンサートを楽しみにしていた大勢の方々より、残念だが仕方がないというお言葉をいただきました。また、「毎年チケットを購入しているが、今年の中止された分を寄付として提供したい」という誠にありがたいお申し出もいただいています。

コンサートは骨髓バンクの普及啓発だけでなく、毎年チケット代金を東京の会の重要な活動資金として活用させていただいています。コンサートが中止

となりチケット売り上げがなくなると、財政的にも大変厳しい状況になります。今年はコロナ禍により活動も制限され寄付も減少傾向で、東京の会の運営も苦境に立たされることが予想されます。

そこで皆さんにお願いです。来年もコンサートを開催できるように、また、これからも骨髓バンクの普及啓発活動を続けて行けるように、活動資金への温かいご支援をお願いいたします。

まだまだ、ウィズコロナの状況が続きますが、皆さんご自愛ください。

東京ドナー登録会予定(11月)

11/11 (水) 赤羽駅東口 (北区)
11/11 (水) 練馬西税務署 (練馬区)
11/13 (金) 六本木ヒルズ (港区)

11/14 (土) 代々木公園イベントB地区 (渋谷区)
11/15 (日) 代々木公園イベントB地区 (渋谷区)

患者家族電話相談
白血病フリーダイヤル

やまいこくふく
0120-81-5929
第2・4土曜日10:00~16:00

※血液専門医も相談に応じます。
※医師に言えない悩み事などもどうぞ。

パパやママになる幸せを白血病患者と家族に ～「どりサポ」クラウドファンディングにご協力を！

「どりサポ」は、寄付の呼び掛けを著名なアスリートが寄付先団体に代わって行い、アスリートたちの連帯と発信力で社会貢献の輪を広げようという、新しい形のクラウドファンディングです。その寄付先団体第1号に、全国骨髄バンク推進連絡協議会が選ばれました。

大谷貴子さんと共に、女性白血病患者に我が子を抱く幸せを知ってもらおうと立ち上がった格闘家ノブ・ハヤシさん。ご自身も急性骨髄性白血病を発病し、実のお姉様から骨髄移植を受けて生還しました。その後2年間の入院と自宅療養を含む6年間の闘病生活を経てリング本格復帰を果たしたのです。

そのノブ・ハヤシさんの活動に共感した、元メジャーリーガーの上原浩治さん、プロ・ラクロスプレーヤーの山田幸代さん、全国協議会理事でプロ麻雀士のルーラー山口（山口明大）さん、そのほか、格闘界からも次々と動画やメッセージが寄せられています。

寄付金は、「このとりマリーナ基金」の資金に充当され、骨髄移植前の女性患者が将来の体外受精に備えて卵子（未受精卵）を凍結保存する費用の助成などに使われます。ぜひ多くの方々のご支援をお願いします！



「どりサポ」
<https://www.dorisapo.com/>

募集期間 12月25日（金）まで
目標金額 5,000,000円

寄付金の使途「このとりマリーナ基金」への繰り入れ、妊孕性温存の啓発活動の費用

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和2年9月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	529,069	66,633	60,170
8-9月登録分	5,183	680	441
8-9月抹消数	4,038	491	—
実質登録増	1,145	189	—

患者とドナー登録・適合状況(9月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	838,647人
ドナー登録抹消者数(累計)	309,578人
HLA適合報告ドナー数(累計)	331,351人
実質登録患者実数(現在)	1,837人(国内1,301人)
HLA適合患者数(累計)	47,848人(患者累計数の79.5%)
非血縁移植実施数	24,748例(8-9月実施195例)

心のコもったご寄付ありがとうございました。(2020.8.16～10.15)

松坂一紀さん 10,000円/光江健太郎さん 50,000円/石山永士さん・勝子さん 4,000円
甲斐彩子さん 12,000円/匿名 10,000円/国分秀樹さん 15,000円/株マルゼン様 5,307円
笠井志保さん 4,000円/宮坂祐輔さん 7,000円/高澤敬太さん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

1月会報発送 「おりおり」のお知らせ

【注意！】今回より会場と曜日が変更となります！

12月の「おりおり」はありません！

会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

※3月「おりおり」予定・3月7日(日)14時00分より

日時：1月10日(日)14時00分より

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所(千代田区東神田1-3-4 KTビル3階)

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

編集者 雑記



▼10月4日(日)夜の9時、何気なく見ていたNHKスペシャル「車いす・陸上の女王」と題する番組に思わず引き込まれてしまいました。先天性下半身不随というハンディキャップを持った車いすランナーのアスリート、タチアナ・マクファーデンさんの瞬発力と持久力を併せ持つ超適応能力がどこから出てくるのかを探る内容でした。

▼マクファーデンさんは1989年、ロシアで生まれました。生まれたとき腰から下がマヒしていましたが、治療されず、手術後施設に預けられました。施設には車いすがなく手を使って移動し、成長するに従い逆立ち歩きが得意になっていったようです。6歳の時、施設の視察に訪れたアメリカ人デボラ・マクファーデンさんに引き取られ、養女になりました。

アメリカ移住後、養母のすすめで水泳、車いすバスケットボール、パラアイスホッケーなどいろいろなスポーツに挑戦し、特に車いす陸上でアスリートとしての能力を発揮し始めました。

▼マクファーデンさんは大変な努力家で下半身不随のため車いすを少しでも早く進めようと、上半身を徹底的に鍛え上げました。両肩、両胸、両腕、背中周辺の筋肉の付き方は写真を見ると岩のようです。それに加え、短距離だけでなく中距離や長距離のマラソンにも適応できる能力を備えていることが成績を見るとわかります。

陸上ランニング競技の選手は、短距離、中距離、長距離と専門化しているのが常識なのですがマクファーデンさんは短距離、長距離とも強いのです。

▼実力のほどは次の通りです。15歳で初めて参加したパラリンピック2004年アテネ大会陸上に出場したときの成績は銀メダル(100m)、銅メダル(200m)、2012年(23歳)ロンドン大会金メダル(400m、800m、

1500m)、2016年リオ大会(27歳)では金メダル(400m、800m、1500m、5000m)銀メダル(100m、マラソン)400mリレー参加と大活躍、冬季大会2014年ソチ大会1kmクロスカントリースプリントに出場し銀メダルを獲得しました。2013年には4大マラソン(ボストン、ロンドン、シカゴ、ニューヨークシティー)を一年間ですべて制覇する「年間グランドスラム」を達成しました。

▼筋肉はその役割で分類すると、①姿勢を保持し体を動かす骨格筋 ②心臓を形成している心筋 ③内臓や血管を動かす平滑筋に分けることができます。体を動かす骨格筋についてさらに詳しく見ると遅筋と速筋に分かれます。

▼遅筋には酸素を蓄えるミオグロビンというたんぱく質が多く含まれ、赤い色をしており赤筋ともいわれます。収縮スピードが遅く瞬発力は出せませんが長時間にわたって力を出し続けることができます。長距離ランナー向きです。速筋は白い色をしているので白筋とも呼ばれます。収縮スピードが速く瞬発力を出すことができます。短距離ランナーに必要です。速筋は20歳前後から萎縮が始まり、衰えるのがはやい筋肉と言われています。

▼マクファーデンさんはトレーニングによって体幹や腕に大きな筋肉をつけており、短距離が有利でマラソン向きではないとみられています。それにも係わらず、長距離にも力を発揮するマクファーデンさんの強さについて、ある学者さんが脳の運動野との関係を調べた結果、上肢の運動がハンディキャップのある下肢の運動野と連携があるかもしれないと推量しているのです。

▼マクファーデンさんは来年に延期された東京パラリンピックで前回リオのパラリンピックで果たせなかった100mからマラソンまで全距離制覇を目指しています。マクファーデンさんに限らず、選手は出場種目で優勝や上位入賞を夢みているのです。そのため、この国の新型コロナウィルスが一日もはやく終息し、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを期待しています。多くの選手の夢がかなえられるよう願ってやみません。(K)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。
皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

なお、他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一九支店(019) 当座 No.055594 に変更となりました

加入者名義 **骨髄バンクを支援する東京の会**